

# 山陽学園中期計画

2022～2026年度



学校法人 山陽学園

2022年3月

## 山陽学園中期計画 目次

1	学園の理念	1
2	2030年の学園の姿（ビジョン）	1
3	ビジョン達成のための具体的な計画	2
	教育研究活動	
1	学園の総合力を高める	2
2	大学・短期大学・大学院の教育研究活動	2
3	中学校・高等学校の教育	5
4	附属幼稚園の教育活動	8
	地域連携の推進	
5	地域連携の推進	8
	教育環境の整備	
6	校舎の耐震改修	9
	経営基盤の強化	
7	学生、生徒、園児の確保	9
8	財務体質の強化	9
9	人材育成と効率的な業務執行	10
10	ガバナンスの強化とコンプライアンス	10
	学園イメージの発信と定着	
11	広報戦略	11
12	同窓会・PTA棟との連携	11
13	山陽アーカイブズ事業の推進	11
4	中期計画の進め方	11
	数値目標	12

## 山陽学園中期計画

2021年、山陽学園は創立135周年を迎えた。学園は、長い歴史と伝統を継承しながらも社会の潮流を見据えた不断の改革を行い、持続的発展をめざす。また、全ての教職員は、改革意識をもって学園発展のために行動する。

計画期間 2022～2026年度（令和4～8年度）

### 1 学園の理念（山陽スピリット）

山陽学園は私立の学園である。建学の精神は、設立趣旨書の「男女は車輪羽翼の如し、両輪両翼平均宜しきを得て初めてその運動を便にす」という言葉に表れている。これは、今日では、教育活動を通して、性別、人種、障害の有無等にかかわらず多様な人々が活躍できる共生社会の実現に寄与することを意味している。

また、本校の教育に生涯を捧げた上代淑の「愛と奉仕」の教えは、山陽学園の教育理念として定着してきた。しかし時代とともにその理念は希薄になりつつあることは否めない。

学園で受け継がれてきたこれらの理念（山陽スピリット）を、教職員をはじめ学園に学ぶもの全てが共有し、実践することを目指す。

### 2 2030年の学園の姿（ビジョン）

人口構造の変化やデジタル技術等の進展により、生活やビジネス環境は大きな変革期に入り、予測が困難な時代を迎えている。こうした中であって、本学園は、次代を担う人材を輩出し、地域において信頼される教育研究機関となるため、4つのビジョンを掲げて取り組む。

#### （1）人格を陶冶する教育

- ・人としての尊厳を尊重する教育を行う。
- ・自尊心を持つとともに、利他の意識、他者とともに生きる力を身につける。

#### （2）社会に貢献する高い志を持った学生、生徒

- ・これまでに経験のない新たな課題に対応できるよう、課題発見・解決力を身につけ、歴史観、世界観に裏打ちされた豊かな人間力を備えた学生、生徒を育てる。
- ・実社会を知り、目的意識をもってより高度な学びをめざす学生、生徒を育てる。
- ・高い倫理観や困難を克服する力を身につけ、学んだことを社会や集団の中で実践できるリーダーシップを育む。
- ・グローバルかつリージョナルな視点で考え、行動する力を養う。

### (3) 地域で信頼される教育研究の拠点

- ・社会のニーズに応じた教育を行い、求められる多様な人材を輩出する。
- ・研究成果を積極的に発信するとともに、企業や団体、公共機関との連携活動等により学園が持つ知的資源を社会へ還元する。

### (4) 改革マインドを持って進化発展する学園

- ・社会の潮流を見据えて教育体制の不断の見直しを行う。
- ・社会経済の変化に即応できるよう財務体質の強化を図る。
- ・学園を担う人材を育成するとともに、ガバナンスを強化しコンプライアンスが確保された運営体制を築く。

## 3 ビジョン達成のための具体的な計画

### 教育・研究活動

#### 1 学園の総合力を高める

##### (1) 共通教育方針

- ・グループ討議や実践活動等による対話型、課題発見・解決型教育の推進
- ・SDGsに関する教育の推進
- ・わが国の歴史・文化を学ぶとともに異文化への理解力を育む教育の推進
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）に対応できる知識・技能の習得

##### (2) 学園内の高大連携

- ・大学、短期大学、高校、中学のそれぞれが持つ教育資源を相互に活用して、交流授業や特別活動等を積極的に推進する。
- ・山陽学園高校から山陽学園大学、短期大学への進学者数を60人以上にする。

#### 2 大学・短期大学・大学院の教育研究活動

##### (1) 教育方針

###### ○「人間教育」の推進

地域社会の発展に貢献できる専門知識や技能を修得させることはもとより、人生をよりよく生きるために不可欠な教養や思考力、判断力、コミュニケーション能力を培うことを通じて豊かな人間力を養う。

###### ○即戦力となる人材の育成

グローバル化の進展、SDGs達成に向けた取り組みの拡大、DXの加速などの時代の変化に的確に対応し、主体的に課題を発見・解決できる能力を身に付けた、実社会で即戦力となる人材を育成する。

###### ○きめ細かな学生支援

入学前教育から初年次教育をはじめとする在学中の学修、就職、就職後のフォローアップまで、きめ細かな学生支援を徹底する。

## ○ハイブリッド教育の展開

DX推進の一環として、PC等の必携化を進め、アクティブラーニングを重視した授業を拡大するなど、対面授業とオンライン授業を効果的に組み合わせたハイブリッド教育を展開する。

## (2) 教育活動の重点

### ① 総合人間学部

(言語文化学科)

- ・海外留学や海外研修、学外での実践学修などを通じて、グローバル化が進展した時代にふさわしい言語運用力を高めるとともに、日本やアジアの文化等を学ぶことで異文化に対する理解と幅広い教養を身につけ、観光分野を含む企業や地域で活躍できる人材を養成する。

(生活心理学科)

- ・心理学の基礎理論をベースに、消費者心理学などビジネスに役立つ心理学やデータの収集・分析をはじめとするデータサイエンスの科目を学び、地域を代表する多様な企業で活躍できる人材を養成する。

### ② 地域マネジメント学部

- ・地域社会を見据えるために必要な社会科学の理論の学修と地域でのフィールドワークなどによる実践を学びの両輪として、地域の企業や自治体、団体などの中核となって、産業や社会の課題解決や活性化に主体的に貢献できる人材を養成する。

### ③ 看護学部

- ・国家試験全員合格を目標に、入学前教育、初年次教育の充実により専門教育へ円滑に導入し、国家試験対策を含めた系統的な学修により看護専門職としての知識・技能を確実に修得させる。
- ・大学ならではの教養課程の学修により幅広い教養と高い倫理観を身につけさせるとともに、社会生活に大きな影響がある感染症対策に強い看護師や、地域住民の健康を守る保健師を養成する。

### ④ 助産学専攻科

- ・1年課程の中で集中的に学修する専門教育を通じて、豊かな人間性と幅広く確かな知識・技術を兼ね備え、地域社会において母子保健に貢献できる助産師を養成する。

### ⑤ 大学院看護学研究科

- ・活発な研究活動等を通じて高度な専門知識・能力を修得し、看護学の発展と地域の保健・医療・福祉の質的向上に貢献できる人材を養成する。
- ・精神看護の実践と発展に寄与する専門看護師(CNS)の養成に力を入れる。
- ・長期履修制度を活用した学修等による現職看護師の資質向上に貢献する。

### ⑥ 短期大学

#### (健康栄養学科)

- ・専門知識と技能を体系的に修得し、地域の人々の健康の保持・増進に貢献する栄養士を養成するとともに、3年コースを活かした調理師、製菓衛生師などのプラスワン資格の取得を支援する。
- ・学校で食育を推進する栄養教諭の資格取得を促し、教育公務員へのチャレンジを支援する。

#### (こども育成学科)

- ・授業と実習や地域貢献活動を通して、保育者として必要な専門的知識と技能を修得し、保育の現場で即戦力として活躍できる質の高い保育者を養成する。
- ・3年コースでのゆとりの時間を活かして、ピアノや作文などの苦手科目の補習を支援するとともに、「認定絵本土」の資格取得を促進するなど、豊かな感性を持つ保育者を養成する。

#### (3) 研究活動の充実

- ・教員が研究倫理教育を受講することを必須化し、研究者倫理を自覚して、学生や社会に還元できる研究活動に積極的に取り組む機運を高める。
- ・教員の学会等での論文発表や著作の増加を促すとともに、学内紀要「山陽論叢」等の充実に努める。
- ・学内競争的研究費の活用や科研費など外部資金の獲得、さらには学外共同研究の推進などにより、研究活動の活性化を図る。
- ・研究成果を地域へ還元するため、パブリシティなどを活用して積極的に発信するとともに、公的機関の審議会等への教員の参画を促進する。

#### (4) 学生支援の充実

##### ① 学修支援

- ・学科での専門科目はもとより、基礎学力を補うリメディアル教育や初年次教育、就職活動を支援する科目も充実させ、入学前教育から就職支援までのトータルな学修サポートを進める。
- ・成績不振者や学生生活上の課題解決を、サポートするための「アドバイザー制度」の実効性を高め、学生のみならず保護者、高校、企業等からの信頼を獲得する。
- ・アドバイザーは、ICTを活用して各種連絡等の効率化を図りながら、日常的な学生とのコミュニケーションと定期的な面談を通じて、学生との信頼関係をより深める。
- ・全ての職員が、多様な障害について理解を深め、障害のある学生に対して積極的に働きかけができるよう対応力の向上に努める。

##### ② 就職支援

- ・キャリアセンターと各学科のアドバイザー等との緊密な連携により、学生の希望や適性を踏まえた計画的で機動的な就職支援を行う。

- ・学生の就職意識を高めるため、就職支援科目を充実する。また、より高い目標へのチャレンジを促すため、「公務員対策講座」や「就活塾」など課外の就職対策講座を充実させるとともに、各種検定・資格取得などのキャリアアップを支援する。

### ③ 経済支援

- ・独自の奨学金制度を効果的に運用し、本学園へ入学を希望する優秀な学生をはじめ、海外研修など、より高い学びを目指す意欲ある学生を支援する。

## (5) 危機管理等

- ・地震や火災など不測の事態が発生した時は、関係規程等に沿って、学長指揮の下、機動的に対応する。また、新型コロナウイルスなどの感染症拡大に対しても感染状況等に応じた迅速かつ的確な対応を行う。
- ・ハラスメント等の防止や基本的人権に関わる諸問題に的確に対応する。また、個人情報等の漏洩やソーシャルメディア利用によるトラブルの防止に向けた情報セキュリティ対策の強化と職員の意識啓発に努める。

## (6) 大学改革等

- ・教育、研究をはじめとする大学運営を学内で点検・評価し、これらの活動を継続的に改善する仕組み（内部質保証）を確立し、的確に運用する。
- ・体系的な教育を展開し、その成果を点検・評価して改善につなげる教学マネジメントを充実させるとともに、研修機会の拡大等を通じて教員の教育力を高める。
- ・生活心理学科と地域マネジメント学科の新カリキュラム、言語文化学科の収容定員増による改革の成果を志願者増につなげる。
- ・短期大学の強みとなっている「3年コース」について、プラスワンの資格取得やゆとり時間の有効活用による学修の補完などのメリットや魅力をさらに向上させる。
- ・山陽学園高校のみならず幅広く県内高校との高大連携を拡大し、高校生が科目等履修生として大学・短期大学の講義等を受講するアカデミック・インターシップ制度も活用しながら、高校生に本学の魅力をアピールする。
- ・将来の発展を見据え、学部・学科の新設や既存学科の収容定員増の可能性、短期大学のあり方などについて検討を行う。

## 3 中学校・高等学校の教育

### (1) 教育方針

2020年度の男女共学化を機とした学校改革の歩みを止めることなく、教育の質の一層の向上を図り、地域の信頼に応える教育を推進する。

(ミッション)

- 「愛と奉仕」の教育理念のもと、調和のとれた教育活動を通して人格の陶冶を図りながら、豊かな教養と品性を備え、高い志を持って社会に貢献する人材

を育成する。

- 135年を超える学園の歴史と伝統を継承しながら、建学の精神に基づく教育を推進し、地域に信頼される学校であり続ける。

(育成する生徒像)

- 人や社会との関わりの中で成長し、自らの力で進路を切り拓く「自立」した生徒
- 多様な価値観を尊重しながら物事の本質を見極め、課題解決を図る「創造」的な生徒
- 自他を敬愛する心や優れた国際感覚をもち、広い視野から社会に「貢献」する生徒

(教育方針)

- 確かな学力の育成
  - ・新しい学習指導要領の実施を踏まえて、中高一貫教育の利点を生かした教科指導や進路指導等の充実を図り、より高い目標を目指す。
  - ・自学自習力の育成と教員サポートの充実により学力を伸長し、一人ひとりの進路実現を図る。
- 実践的な英語力の育成
  - ・海外留学や海外研修などの場面を多く設け、異文化体験・理解に基づく国際感覚を養う。
  - ・ネイティブ教員の授業や山陽学園大学との連携により、実践的な英語4技能（読む、書く、聞く、話す）を伸ばす。
- リーダーシップの育成
  - ・特別活動やボランティア活動等を通して、「愛と奉仕」の教えを実践できる主体性を育てる。
  - ・身につけた知識・能力をもとに、他者と協力して課題解決を図る力を養う。

## (2) 教育活動の重点

### ① 学力向上と進路実現

- ・授業時間数を確保するとともに、家庭での学習実態を検証して学習指導に反映し、生徒の主体的な学習習慣の定着を図る。
- ・「駿台サテネット講座」やオンライン英会話を効果的に活用し、全国レベルの学力を育てる。
- ・キャリア教育を充実させ、適性を踏まえてより高い目標を目指す進路指導を行う。
- ・全コースから国公立大学を目指す体制を整え、国公立30名以上の合格者を目指す。
- ・山陽学園大学・短期大学との高大連携を充実し、進学者60名以上を目指す。



## ② 豊かな人間性の育成

- ・一日の始まりのSHRで、上代淑の「日々のおしえ」を活用して規範意識や自己管理能力を育て、お互いを認めて高め合う集団づくりを行う。
- ・学校行事や生徒会活動、部活動の活性化を図り、異年齢集団による様々な感動体験を通して、自信や達成感、自己肯定感を持たせる。
- ・地域と連携した活動やボランティア活動等への参加を促し、社会との関わりの中で「愛と奉仕」の教えに基づく主体的、具体的な行動がとれるようにする。

## ③ 特色ある教育の推進

### ア SDGs教育の推進

- ・身近な事象への社会的関心を高め、課題解決に向けて実践的に取り組む資質・能力を育てる。
- ・探究学習や地域学をはじめ、各教科・科目の学習の中でSDGsに関連したテーマを取り扱い、教育活動の工夫を図る。
- ・教科の枠を越えたキャリア教育や人権教育等において、社会とつながる様々な体験から、人としての在り方生き方を学ばせる。

### イ 多文化理解教育の推進

- ・教育活動の中に異文化体験・理解の場面を多く設け、国際感覚を養い、共生の心を育てる。
- ・コロナ感染症の世界的な感染状況に留意しつつ、海外研修や留学の機会を可能な範囲で設け、実体験を奨励する。
- ・日本の文化・伝統の学びとして、道徳や総合的な探究の時間に茶道を取り入れ、日本人としての素養を身につける。

### ウ ICTを活用した教育の推進

- ・授業においてChromebook等のICTを活用し、対話的で深い学びを推進するとともに、生徒自ら多様な方法で学習に取り組むことのできる「個別最適な学び」につなげる。
- ・より「わかる授業」を推進するため、デジタル教科書の有効性について研究し、授業に反映する。

## (3) 危機管理等への対応

- ・生徒の健康と安全を保持し、生徒間のトラブルを未然に防ぐため、生徒の出席状況などに心配な兆候があれば時期を逸することなく状況を把握し、家庭やカウンセラーと連携して対応する。
- ・いじめ等アンケート調査や学校生活アンケート調査（学校評価）を継続的に実施し、体罰やいじめ、教員によるハラスメントなどの問題を早期に発見して解消に努める。
- ・不法侵入者や自然災害等の対応については、危機管理マニュアルに従い、関係機関の協力を得て迅速、適切、円滑に行う。

#### (4) 教員の指導力向上

- ・授業公開や授業評価等により、教員が相互に授業改善に努める。
- ・ICT機器を活用した授業やオンライン授業を効果的にできるよう、教材研究や先進事例の研究を行う。
- ・教科、学年等で教育効果を定期的に分析・共有し、指導方針の改善につなげる。

### 4 附属幼稚園の教育活動

#### (1) 教育方針

自然に恵まれた教育環境を生かして、心身ともにたくましく心豊かな子供を育てる。

#### (2) 特色ある教育

- ・大学・短期大学の教員や学生との連携により、英語教育や食育など山陽学園ならではの教育を進める。
- ・就学後にSDGsの理解者や実践者となっていくための原体験となるような保育活動を推進する。
- ・地域、家庭、提携企業などと連携した多様な学びの場を通して、心の通う温かな人間関係の素地を養う。

### 地域連携の推進等

### 5 地域連携の推進

#### (1) 地域連携事業の推進

- ・地域や団体等との協働活動を積極的に推進し、地域にとって「頼れる学園」となる。
- ・地域の課題等を授業や課外活動のテーマとして取り組むことで、地域に貢献するとともに、学生、生徒が実社会を理解し課題解決力を修得することにつなげる。

#### (2) ボランティア活動の活性化

- ・ボランティア活動は社会との繋がりを実感できる貴重な体験であることから、学生、生徒が積極的に参加できるよう、課外活動の活用やボランティア情報の提供等を通じてサポートする。

#### (3) 社会人教育の充実

- ・大学、短期大学は、「リカレント教育計画（仮）」を策定して学び直しを希望する社会人の入学や科目等履修生の受入等の体制を充実し、積極的な発信と募集活動に努める。
- ・中高年齢者をはじめ社会人の知的活動の受け皿として、公開講座や文化セミナー等を積極的に開催し、地域に開かれた学園としての役割を果たす。

## 教育環境の整備

### 6 校舎の耐震改修等

- ・ 中学、高校の生徒数の増加による教室数の不足に対応するため、南棟と西棟に替わる新館を建設する。
- ・ 大学、短大の未耐震の校舎について、改修計画を策定する。
- ・ 教育活動や業務遂行において必要不可欠な I C T 環境を計画的に充実する。

## 経営基盤の強化

### 7 学生、生徒、園児の確保

(学生の確保)

- ・ 財務体質強化のため定員確保は至上命題である。学生募集の第一義的責任は学部長、学科長にあることを再確認し、関連情報を入試部に集中させて、学長の指揮のもと戦略的に募集活動を行う。
- ・ 県外からの学生を確保するため、県外エリア担当を配置する。
- ・ 奨学金制度など学生確保の誘因策が効果的なものとなるよう、不断の見直しを行う。

(生徒の確保)

- ・ 中学、高校のみならず学園全体の持続的発展のため、高校の入学定員を 250 名に増員する。
- ・ オープン模試や入試の結果を多面的に分析し、入試戦略・募集活動に反映する。

(園児の確保)

- ・ 短期大学、大学看護学科の実習園としての役割を十分果たせるよう園児数を確保するとともに、幼保連携型認定こども園への移行を視野に、2歳児の体験入園や預かり保育の充実を図る。

### 8 財務体質の強化

安全で快適な教育環境を整え、将来にわたって健全な学園運営を行うため、財務体質の強化を図る必要がある。このため、事業の費用対効果を分析して予算編成、予算執行を行うとともに、学生、生徒の充足による学納金収入の確保、補助金や外部資金の獲得、寄附金募集に努める。

これらの徹底により、毎年度の事業活動収支比率を 1% 以上にすることを目指す。

(財政計画試算にあたっての在籍者数の見通し)

	学園計	大学	短大	高校	中学	幼稚園
2021 年度	1,991	812	286	585	186	122
2022 年度	2,095	769	370	637	197	122
2023 年度	2,124	768	359	673	204	120
2024 年度	2,168	781	370	690	207	120
2025 年度	2,254	804	394	705	231	120

2026年度	2,304	846	402	705	231	120
--------	-------	-----	-----	-----	-----	-----

(財政計画の基礎となる人件費比率の見通し)

	学全体計	大学	短大	中・高	幼稚園	
2021年度	61.7	54.4	79.2	64.2	73.2	見込
2022年度	64.3	64.4	66.1	62.1	77.1	
2023年度	64.5	67.9	56.2	63.0	75.8	
2024年度	64.0	65.3	57.2	64.3	77.3	
2025年度	62.5	64.5	55.3	62.0	78.8	
2026年度	61.7	61.5	56.4	63.2	80.4	

## 9 人材育成と効率的な業務執行

学園の発展は、職員の活躍に負うところが大きい。このため、学園を担う人材を計画的に育てる。

- ・目標管理による業務評価制度の導入と、定期的な人事異動により、職員の資質向上と学園業務の効率化に資する。
- ・各部署は、業務を標準化（業務のマニュアル化、書類の共有化、整理整頓など）し、属人的になりがちな業務を組織で対応できるよう管理する。
- ・各部署の責任者は、職員に対するOJTを充実し、学外研修等へも積極的に参加させるよう努める。
- ・全ての職員は、風通しのよい職場づくりに努めるとともに、目的意識をもって業務を遂行する。また、不断の業務改善と執務環境の整理整頓に努める。

## 10 ガバナンスの強化とコンプライアンス

### (1) ガバナンス機能の強化

- ・学園の運営主体である理事会、諮問機関の評議員会、チェック機関の監事がそれぞれの機能を十分発揮できるよう、学園情報を積極的に提供する。
- ・法人本部、大学、高校等の所属長は、相互に協力して学園の発展に努める。所管業務の遂行にあたっては、強いリーダーシップを発揮して職員を指揮監督する。
- ・学園組織において、また、それぞれの所属において、役割分担と責任体制を明確にし、秩序ある意思決定を行う。

### (2) コンプライアンスの遵守

- ・学園の教育活動は公益事業である。社会からの信頼と支援を失うことのないよう、職員は常にコンプライアンスを遵守して業務を遂行する。
- ・日々多くの学生、生徒の個人情報扱っているため、その取り扱いに十分配慮する。そのための研修を定期的に行う。

### (3) 情報公開の推進

- ・受験生や保護者、求人企業をはじめ広く社会から本学園の教育研究活動等への理解と評価を得るため、ホームページ等を活用して学園情報を積極的に公開する。

## 学園イメージの発信と定着

### 1.1 広報戦略

#### (1) 学園イメージの発信・定着

- ・学園のアイデンティティを表すものとして、校歌、校章、スクールカラーなどがある。また、「山陽学園」「Sanyo Gakuen」などのロゴを統一する。これらをあらゆる機会に前面に出して、山陽学園のイメージの定着を図る。

#### (2) ホームページによる広報

- ・ホームページは、学園と学生や生徒、保護者、社会とを繋ぐ情報基地である。掲載する情報は、情報を受けとる側の目線に立って編集し、時期を逃さずメリハリをつけて発信する。

#### (3) パブリシティの積極的活用

- ・マスメディアの報道は一般市民に対して山陽学園の存在を広く打ち出すことができる。平素からマスメディアと連携を密にし、学園情報をタイムリーに、かつ、取り上げられ易いかたちに工夫して提供する。

### 1.2 同窓会・PTA等との連携

学園の諸活動について、同窓会やPTA、卒業生など学園関係者と連携を密にして実施する。また、学園関係者の活動とも相互に連携し、山陽学園への帰属意識と誇りを高めていく。

### 1.3 山陽アーカイブズ事業の推進

歴史ある貴重な学園資料の散逸を防ぐとともに、効果的な活用ができるようアーカイブズ事業を推進する。将来は資料館の整備を目指す。

## 4 中期計画の進め方

- ・中期計画をもとに、所属ごとの年度計画及び学科等部門別の個別計画を策定し、PDCAサイクルによる管理を行いながら中期計画の目標を達成する。
- ・各計画は、数値目標を設けて推進する。
- ・中期計画の進捗状況は、定期的に理事会、評議員会へ報告する。また、外部評価委員等の意見を聞く。

## 数値目標

- ・学生アンケートで「教育全般について満足している」と回答した者の割合  
70%以上 (2021年度：63.3%)
- ・大学、短期大学での対話型、問題発見・解決型授業の割合  
70%以上 (2021年度：大学55.6%、短大60.0%)
- ・大学、短期大学の中途退学と除籍者の割合  
3.0%未満 (2020年度：2.5%)
- ・生徒による学校評価で「学校生活は楽しく満足している」と回答した者の割合  
90%以上 (2020年度：78.9%)
- ・国公立大学合格者数  
30人以上 (2021入試：15人)
- ・入学試験志願者数
  - 大学 600人以上 (2021入試：538人)
  - 短大 200人以上 (2021入試：165人)
  - 高校 2,000人以上 (2021入試：1,352人)
  - 中学 600人以上 (2021入試：466人)
- ・大学、短期大学への内部進学者数  
60人以上 (2021入試：40人)
- ・事業活動収支差額比率  
1.0%以上 (2020年度：3.9%)
- ・社会人教育の受講者数（公開講座、セミナー、聴講生など）  
700人以上 (2017～2019平均：697人)
- ・社会人入学者数  
10人以上 (2021入試：4人)